

令和3年度第1回 横浜市市民プラザ指定管理者選定評価委員会 議事録

- 1 日 時 令和3年5月17日（月） 15時30分から17時まで
- 2 場 所 横浜市役所18階 さくら15会議室
- 3 出席者 伊藤 裕夫 委員長、大野 幸子 委員、佐々木 岳 委員、関谷 裕子 委員
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 応募団体面接審査                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 提案者プレゼンテーション</li> <li>(2) 提案者に対するヒアリング</li> </ol> </li> <li>2 本審査                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 応募団体制限事項等の確認について</li> <li>(2) 審議及び採点</li> </ol> </li> </ol>
議事・ 委員意見等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</li> <li>(2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市市民プラザ指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。</li> </ol> </li> <li>2 応募団体ヒアリング 応募団体（吉野町・岩間アート&amp;メディアパートナーズ）による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。</li> </ol> <p>&lt;主な質疑応答&gt;</p> <p>（以下「・」：委員、「→」：提案者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ形成について、新型コロナウイルス感染症の影響で従来通りのやり方では困難になると思われる。コロナ禍における変化もふまえ、次期指定管理期間で取り組んでいきたい部分について説明してほしい。</li> <li>→映像発信に取り組んでいきたいと考えている。地域で保存してきた郷土芸能や御囃子などは、今後アーカイブ化していかなければ消え去ってしまう恐れがある。こうしたものを保存し、施設に来なくても見ることができるような仕組みを作り、地域の文化を伝えていくことを考えている。</li> <li>・様式19について、「南区の地域コミュニティ間の競争意識が弱まっている」という表現があったが、これはどういう意味か。</li> <li>→南区は日枝神社という神社があり、神社を中心として、御神輿などにより地域活動に競争が生じ、非常に盛んな活動があった。しかし現在、町内会の中心を担っていた人々が高齢化し、引退していく状況があり、こうした意味で「競争意識が弱まっている」と書いた。コミュニティが衰退していくことへの危機感を持つ人々を吸い上げ、新たなコミュニティの創出につなげていきたいと考えている。</li> <li>・提案書にはクラウドファンディングという新たな提案があったが、ターゲットや手</li> </ul>

法などどういう想定をしているのか。

→クラウドファンディングという言葉は広い意味で用いている。具体的には、商店街単位で企画をした際に、まずは商店街の有志でお金を集め、次に商店街のホームページでクラウドファンディングを募ることが想定される。その際に施設として中核で関わっていく、といったことをイメージしている。

・助成金について、獲得実績があれば教えてほしい。

→なかなか獲得が難しかったが、吉野町市民プラザについては昨年度、神奈川県から新型コロナウイルス感染症対策として150万円獲得した。また、岩間市民プラザでは文化庁の新型コロナウイルス感染症の対策費用に関する助成金を獲得している。

・様式14について、一体プロジェクト統括マネージャーをどちらかの館長が担う旨の記載があったが、負担は重くなりすぎないか。また、なぜ館長が兼任するのか。

→一体プロジェクト統括マネージャーは、館全体を動かしていく権限が必要なため、館長が兼任することとした。負担については、常にどちらかの館長が一体プロジェクト統括マネージャーをやるのではなく、内容に応じて変わっていくため、問題ないと考えている。たとえば、地域と連携する事業については、地域に強い方の館長が統括マネージャーとなり、クラシック音楽のコミュニティ形成については、クラシック音楽に強い方の館長が統括マネージャーとなる、といった形を想定している。

・施設の特性上、利用者には60代以上の方が多いため、インターネットに力を入れるよりはテレビやラジオなど、従来のマスメディアを使って広報していくことが提案されているが、高齢の方のITスキルも今後は上がっていくのではないか。今後インターネットを用いたツールを導入していくことは考えているか。

→利用者の中には、ネットに弱いというよりも、メールアドレスはない、家に固定電話もない方々がいる。一方でSNSしか見ない方々もいるため、既存メディアもSNSもどちらも必要であり、両方活用していくつもりである。

なお、SNSについては現在フェイスブックとインスタグラムも使用して広報している。フェイスブックでは、イベントがあった日には写真を掲載しており、一日のアクセスが800を超えることもあり、効果があると考えている。今後は即時性を考え、さらにツイッターの活用も検討している。

・SNSにはフェイスブック、インスタグラム、ツイッターとあり、その全てを利用していくというイメージでいるのか。若者に何がヒットするかは、こちらで考えてもつかめな部分がある。若者に対する効果的な広報を検討するにあたって、地域の高校や大学と連携し、高校生や大学生にプロモーションを考えてもらうとか、そういった考えがあるか。

→若い人に最もヒットするのはインスタグラムであると考えている。インスタグラムは、長い文章を書く必要がなく、写真を見るだけで反応することができる。

地域との連携については、南区にある県立横浜清陵高等学校写真部が、毎年吉野町市民プラザで写真展をやってくれている。写真部の高校生には、たとえば施設の事業の記録の一部を撮ってもらう、といった連携をしている。また、音楽関係の大学とも定期的にコンサートの会場として使用してもらう、クリスマスコンサートと称してロビーコンサートにも出してもらう、といった形で関係づくりを進めており、練習利用につながっている部分もある。

・提案書に、地域コミュニティを活性化していく人材の育成として「コーディネーターやサポート人材」という言葉、また「市民プラザ未来開発プロジェクト」という言葉が登場しているが、これはどういう意味か。

→「コーディネーターやサポート人材」は、地域と連携する中で接する今後地域を盛り上げていくだろう方々を念頭に置いた表現である。具体的には、地域の酒屋さんが中心になり神社の神楽殿でコンサートをやる、という活動に施設として長年協力しているが、こうした方々の力を活用したいという思いがある。

また、障がい者をダンスにつなげるという活動を行っているダンス教室とも連携し、ワークショップを始めている。ダンスのみならず、音楽や映像といった様々な取組を行っている人々を繋げ、今後どう施設を使っていくか一緒に考えていく、といった形で「市民プラザ未来開発プロジェクト」を構想している。

・岩間市民プラザで成功しているプランを吉野町市民プラザでも実施する、など、成功しているものを他方にもつなげていく、といったことは考えているか。

→吉野町市民プラザで「音楽空間」という対バン形式のコンサートをやって非常に好評だったため、岩間市民プラザでも同様の取組として「岩間ROCK SPACE」を実施し、成功した実績がある。さらに、これらのイベントの出演者の中で選抜し、関内ホールで決戦大会を実施することとして、3館連携事業に発展させた。非常に好評だったため、コロナ禍で難しい部分もあるが、今後も続けていきたい。

・吉野町市民プラザは全面が鏡張りのため、用事がないと入りづらいのではないかと。たとえば親子世代の集合場所になると良いと思うが、どう考えているか。

→南区には「ぐるっと南」という区内の様々な地域施設をつなげる会があり、吉野町市民プラザはもともとこの会に所属しているが、会のつながりを活用していくことを考えている。また、親子イベントでは施設にたくさん来て頂けているため、認知はされている実感がある。

・様式24の収支計画について、駐車場利用料収入が0円になっているが、これは利用料金収入に一括して計上しているということか。

→駐車場利用料収入は「利用料金収入」に一括計上している。

・コミュニティ活性化の人材を育成する際に、地域内部のみでは難しい。外部との連携が基本になっていくと思うが、その幅の広さや選択の基準について伺いたい。

→継続の意思がなければ続けていけないため、まずはすでに活動している方々を繋げることを考えている。具体的には、商店街との連携や大学生とのワークショップ、また、共同事業体の構成団体に横浜市芸術文化振興財団があるため、アーティストに声をかけることも考えている。最も重要なのは、今後地域コミュニティを担っていくことになる40代～50代の方々をメインのターゲットに据え、「自分たちの街」なんだという意識を持っていくことだと思う。

・提案書の「市民プラザ未来開発プロジェクト」について具体的に伺いたい。

→「市民プラザ未来開発プロジェクト」はこれまでの経験から考案した試みである。指定管理期間の中で、地域のイベントの実行委員長がご高齢で突然亡くなられてしまい、実行委員長がいなくなったとたんにイベントそのものが潰れそうになってしまったことがあった。この経験を踏まえ、当該イベントの復活、継続する試みをしたいというのがまず第一点である。

ただ、当該イベントのみの話では2館を管理運営しているという特徴を活かせないため、両館に資するテーマ、共通で考えられる問題をテーマに取り組んでいきたい、というのが第二点である。

具体的には、まず会議を設置し、方向性が見えたところでスタッフを増やしていくことを最初の1～2年で実施する。会議をふまえ、指定管理期間3～4年目で実際に事業を展開していく。こうしたロードマップで考えている。

	<p>・神奈川県から助成金を獲得し、オンライン配信したという話があったが、実際の反響はどうだったのか。利用者のニーズに合致しているのか。 →2000を超えるアクセスがあり、好評だったと考えている。</p> <p>3 本審査</p> <p>(1) 応募団体について、応募団体の制限項目のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。</p> <p>(2) 提案書類及びヒアリングの内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。</p> <p><b>【審査結果】</b></p> <p>・提案者：吉野町・岩間アート&amp;メディアパートナーズ 総得点718点／880点（委員4名×持ち点220点）</p> <p>なお公募要項に、指定候補者及び次点候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、4名全ての委員がこの基準を満たしていることを併せて確認した。</p>
<p>審議結果</p>	<p>応募団体（吉野町・岩間アート&amp;メディアパートナーズ）を指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p>